

2026年度 文学部聴講生

講義要項

(中国言語文化専攻抜粋)

中央大学 文学部

2026.4 - 2027.3

科目名： 現代中国事情A

担当教員： 麻生 晴一郎

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 木5

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-GC1-E201

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:5

更新者： AD1692

更新日時： 2025-12-31 20:01:2

授業形式

すべての授業回について、対面での授業を行います。

履修条件・関連科目等

- ・特にありませんが、中国に関心を持っていることが必須です。
- ・中国言語文化専攻の学生は専攻の基幹科目になりますので履修を検討してください。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

現代中国を限りなく中国の側から理解するために、外国からは理解しづらい面がある中国の政策や外交姿勢にも通じる社会主義核心価値観の各概念を解説書などを用いて考えていきます。日本の側から見れば違和感を抱く箇所もあると思いますが、授業では適宜違った見方・考え方を提示しつつも、中国で学ばれている内容には一定の敬意を込めたいと思います。合わせて国家体制、政治制度、社会制度、メディア事情、日中関係など現代中国の基本的な知識にも触れていきたいと思います。

授業は基本的に講義形式で行い、毎回終盤の時間を「意見と質問の時間」とし、前回のリアクションペーパーの内容を一部取り上げます。

科目目的

中国に関する基礎的な知識とともに、相手の側に立って考えてみるという交流の基本姿勢も身につけること、変容する中国を立体的に理解し、専門的な知識と自らの思考によって中国に対する関心を持続できるような学修を目的とします。

到達目標

今の中国社会に関するさまざまなニュースをなるべく偏りなく見ることができること、中国の社会や人と関わる上で知っておくべきことを身につけることを、到達目標とします。

授業計画と内容

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 序説
- 第3週 富強 (以下は社会主義核心価値観の各概念)
- 第4週 民主
- 第5週 文明
- 第6週 和諧
- 第7週 自由
- 第8週 平等
- 第9週 公正
- 第10週 法治
- 第11週 愛国
- 第12週 敬業
- 第13週 誠信
- 第14週 友善

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

レジュメを読んでおくこと、授業終了後のリアクションペーパーの提出

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 学修の効果がどの程度示されているか
平常点	70% 到達度確認の課題への取り組みが充分かどうか
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

- ・毎回アクションペーパーで感想などを記してもらい、平常点として重視します。
- ・正当な理由で欠席する場合はメールで事前に申請して代替課題を相談してください。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎回の授業の後半でアクションペーパーの内容を一部紹介します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

テレビ番組ディレクター・プロデューサーとして中国報道に関わる(1992～2002年)
 フリージャーナリストとして中国報道に関わる(1998年～)
 NPO法人「AsiaCommons 亞洲市民之道」を主宰し日中市民交流に携わる(2010年～)

実務経験に関連する授業内容

実務経験に関する授業テーマ：現代中国社会、日本における対中意識、中国における対日意識
 実務経験に関する授業内容：中国報道・日中市民交流に携わってきた中での知識・経験を授業に取り入れます。

テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布します。参考文献は授業中に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

1. 「現代中国事情A」は前期科目ですが、後期「現代中国事情B」と合わせた履修を推奨します。
2. 毎回授業の数日前にmanabaでレジュメを公開します。予習に役立ててください。授業に関する連絡はmanaba掲示板で行います。
3. 教員メールアドレス 麻生晴一郎 gikyoudai@gmail.com

参考URL

備考

この科目は教職(中国語)の必修科目です。

科目名：現代中国事情B

担当教員：麻生 晴一郎

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：木5

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-CG1-E202

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:5

更新者：AD1692

更新日時：2025-12-31 20:02:0

授業形式

すべての授業回について、対面での授業を行います。

履修条件・関連科目等

- ・特にありませんが、中国に関心を持っていることが必須です。
- ・中国言語文化専攻の学生は専攻の基幹科目になりますので履修を検討してください。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

「現代中国事情A」に引き続き、現代中国を限りなく中国の側から理解するために、中国の国家体制、政治、社会、日中関係など、各回の授業で具体的なテーマを取り上げ、それらが中国の学生が用いる教科書や学習参考書でどのように書かれているかに触れながら考えていきます。日本の側から見れば違和感を抱く箇所もあると思いますが、適宜違った見方・考え方を提示しつつも、中国で学ばれている内容には一定の敬意を込めたいと思います。合わせて現代中国の基本的な知識にも触れていきたいと思います。

授業は基本的に講義形式で行い、毎回終盤の時間を「意見と質問の時間」とし、前回のリアクションペーパーの内容を一部取り上げます。

科目目的

中国に関する基礎的な知識とともに、相手の側に立って考えてみるという交流の基本姿勢も身につけること、変容する中国を立体的に理解し、専門的な知識と自らの思考によって中国に対する関心を持続できるような学修を目的とします。

到達目標

今の中国社会に関するさまざまなニュースをなるべく偏りなく見ることができること、中国の社会や人と関わる上で知っておくべきことを身につけることを、到達目標とします。

授業計画と内容

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 国土
- 第3週 多民族国家
- 第4週 愛国と愛党
- 第5週 一国二制度
- 第6週 道徳
- 第7週 生活の変化
- 第8週 政治参加
- 第9週 中国の夢
- 第10週 社会主義
- 第11週 日中戦争
- 第12週 民主と法治
- 第13週 安全と軍事
- 第14週 受講者の意見・質問へのコメント

- ・授業内容は、中国の最新情勢などに応じて変更する場合があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

レジュメを読んでおくこと、授業終了後のリアクションペーパーの提出

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 学修の効果がどの程度示されているか
平常点	70% 到達度確認の課題への取り組みが充分かどうか
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

- ・毎回リアクションペーパーで感想などを記してもらい、平常点として重視します。
- ・正当な理由で欠席する場合はメールで事前に申請して代替課題を相談してください。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎回の授業の後半および第14回でリアクションペーパーの内容を一部紹介します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

テレビ番組ディレクター・プロデューサーとして中国報道に関わる(1992～2002年)
フリージャーナリストとして中国報道に関わる(1998年～)
NPO法人「AsiaCommons 亞洲市民之道」を主宰し日中市民交流に携わる(2010年～)

実務経験に関連する授業内容

実務経験に関する授業テーマ 現代中国社会、日本における対中意識、中国における対日意識
実務経験に関する授業内容 中国報道・日中市民交流に携わってきた中での知識・経験を授業に取り入れます。

テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布します。参考文献は授業中に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

1. 「現代中国事情A」は前期科目ですが、後期「現代中国事情B」と合わせた履修を推奨します。
2. 毎回授業の数日前にmanabaでレジュメを公開します。予習に役立ててください。授業に関する連絡はmanaba掲示板で行います。
3. 教員メールアドレス 麻生晴一郎 gikyoudai@gmail.com

参考URL

備考

この科目は教職(中国語)の必修科目です。

科目名: 中国文学概論A

担当教員: 材木谷 敦

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 木1

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-E203

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:5

更新者: AA9823

更新日時: 2026-01-10 22:16:5

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

中国古典文学に関心を持つようとする場合に知っておくべき事柄と考えかたを説明します。

科目目的

中国言語文化専攻のポリシーに言う中国の人々の暮らし・考え方の背景となる歴史や文化についての正確な知識の獲得のため、中国古典文学に関する導入科目として、中国古典文学史と中国古典文学研究のありかたを理解してもらい、以て文学部のディプロマ・ポリシーに言う専門的学識、幅広い教養、複眼的思考を培うこと。

到達目標

学生が中国古典文学や古い時代の中国について理解を深めること。

授業計画と内容

1. この科目についての説明
2. 中国古典文学をめぐる紋切型
3. 「漢文」について
4. 「中国」について
5. 「古典」について
6. 「文学」について
7. 古代中国基礎知識: 歴史区分など
8. 古代中国基礎知識: 地理など
9. 古代中国基礎知識: 暦法など
10. 文学史の意味
11. 中国古典文学史の流れ: 時代
12. 中国古典文学史の流れ: ジャンル
13. 中国古典文学史の流れ: 人物
14. 総括・まとめ: 中国古典文学についての考えかた

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業内容を復習すること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	80%	学習の効果がどの程度示されているか。
レポート	0%	
平常点	20%	小テストなどの結果。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

期末試験を受けなかった場合、成績評価の対象から外します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストとして、授業教室またはmanabaで資料を配付します。

オフィスアワー

その他特記事項

履修者には訳読を要求しないので、いわゆる「中国語」やいわゆる「漢文」についての知識がなくてもかまいません。連絡方法についてはmanabaのコースニュースを参照してください。

参考URL

備考

この科目は教職(中国語)の必修科目です。

科目名： 中国文学概論B**担当教員： 材木谷 敦**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 木1

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-LT1-E204

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:5

更新者：AA9823

更新日時：2026-01-10 22:17:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中国古典文学について、いくつかの話題に沿い、具体的な作品に即して、なるべく多くの時代・ジャンルを取り上げ、広く浅く講義します。中国古典文学についての理解が、現代中国の古層としての古い時代の中国についての理解につながるよう、必要に応じて、文学作品以外の文献も取り上げます。

科目目的

中国言語文化専攻のポリシーに言う中国の人々の暮らし・考え方の背景となる歴史や文化についての正確な知識の獲得のため、中国古典文学に関する導入科目として、中国古典文学史と中国古典文学研究のありかたを理解してもらい、以て文学部のディプロマ・ポリシーに言う専門的学識、幅広い教養、複眼的思考を培うこと。

到達目標

学生が中国古典文学や古い時代の中国について理解を深めること。

授業計画と内容

1. この科目についての説明
2. 中国古典詩歌の形式
3. 平仄と古典詩歌
4. 平仄を見分ける
5. 季節認識の原型
6. 季節認識と表現
7. 距離に対する認識
8. 距離をめぐる表現
9. 怪異・俗信の問題
10. 怪異・俗信的言説
11. 科挙前史
12. 科挙について
13. 文学革命
14. 総括・まとめ：中国古典文学とその背景

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業内容を復習すること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	80%	学習の効果がどの程度示されているか。
レポート	0%	

平常点 20% 小テストなどの結果。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

期末試験を受けなかった場合、成績評価の対象から外します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストとして、授業教室またはmanabaで資料を配付します。

オフィスアワー

その他特記事項

連絡方法についてはmanabaのコースニュースを参照してください。
「中国文学概論A」を履修していない場合、難解かもしれません。
ごく簡単な「中国語」や「漢文」の読解を課すことがあります。

参考URL

備考

この科目は教職(中国語)の必修科目です。

科目名: 中国語学概論A

担当教員: 石村 広

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 金4

配当年次: 1・2年次担当

科目ナンバー: LE-LG1-E205

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:5

更新者: AA1138

更新日時: 2026-01-12 11:23:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「中国語学」とは、中国語の四技能(読む・話す・書く・聴く)の習得を目指す方向とは異なり、中国語(漢語)がどのような構造を持ち、どのような歴史を辿ってきたかを研究する学問である。本授業では、中国語研究を行うための基礎力を養う観点から、「中国語はどのような言語か」という問題を中心に講義を行う。前期は、これまでの主要な研究成果を紹介しながら、共通語の基礎である北京官話と南方諸方言との関係にも目を配り、世界諸言語からみた中国語の類型学的位置づけを試みる。

科目目的

一般言語学の基礎に基づきながら、中国語学の入門的な知識を習得することを目的とする。ことばの分析と研究に欠かせない重要な概念を取り上げ、中国語の一般性と個別性について理解を深める。

到達目標

中国語の分析に必要な基礎知識や分析方法を身につける。

授業計画と内容

1. ガイダンス: 授業履修上の留意点について説明の後、学生による考察を各自記入する。
2. 系譜的分類と語族(1): 基本的な考え方
3. 系譜的分類と語族(2): 漢語系言語について
4. 系譜的分類と語族(3): 中国少数民族の言語について
5. 漢語の「規範化」について: ピンインの成立過程を中心に
6. 共通語と方言(1): 共通語の定義について
7. 共通語と方言(2): 共通語と北京語の違い
8. 共通語と方言(3): 南方諸方言の分布とその特徴
9. 形態的類型論(1): 学問的背景
10. 形態的類型論(2): 屈折語とその統語的特徴
11. 形態的類型論(3): 膠着語とその統語的特徴
12. 形態的類型論(4): 孤立語とその統語的特徴
13. 文法論と語用論: 「主語」優位言語と「主題」優位言語
14. 学習内容の確認: 「中国語」とはどういう言語か

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 6割以上の得点を合格の目安とする。

レポート	0%
平常点	30% 出席回数、授業に対するコメント等の提出物に基づいて判断する。
その他	10% 課題(宿題)等の提出物に基づいて判断する。

成績評価の方法・基準(備考)

学期末の確認試験やレポートなどの成績に平常点を勘案して、総合的に評価する。授業に取り組む姿勢を重視する。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- <テキスト>特に指定しない。PDFやプリントを使用する。
- <参考文献>
- ・北京大学中文系編『現代中国語総説』三省堂, 2004年
- ・朱徳熙著『文法講義』白帝社, 1995年
- ・S.R.ラムゼイ著『中国の諸言語一歴史と現況一』大修館書店, 1990年
- ・太田辰夫著『中国語歴史文法』江南書院, 1958年
- ・橋本萬太郎『漢民族と中国社会』, 山川出版社, 1983年初版

オフィスアワー

その他特記事項

授業参加を充実させるために、現地渡航経験を重ねていくことも中国語学研究のみならず、中国語本体のブラッシュアップにも寄与するので意欲的に取り組まれることをおすすめしたい。

参考URL

備考

この科目は教職(中国語)の必修科目です。

科目名： 中国語学概論B**担当教員： 石村 広**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：金4

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-LG1-E206

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:5

更新者：AA1138

更新日時：2026-01-12 11:23:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中国語学概論Aに引き続き、授業を展開していく。「中国語学」とは、中国語の四技能(読む・話す・書く・聴く)の習得を目指す方向とは異なり、中国語(漢語)がどのような構造を持ち、どのような歴史を辿ってきたかを研究する学問である。本授業では、中国語研究を行うための基礎力を養う観点から、「中国語はどんな言語か」という問題を中心に講義を行う。後期も主として言語類型論の研究成果を紹介しつつ、中国語の仕組みと特徴について講義する。中国語を観察・記述するための理論的な道具立てを一通り解説することに眼目を置く。

科目目的

一般言語学の基礎に基づきながら、中国語学の入門的な知識を習得することを目的とする。ことばの分析と研究に欠かせない重要な概念を取り上げ、中国語の一般性と個別性について理解を深める。

到達目標

中国語の分析に必要な基礎知識や分析方法を身につける。

授業計画と内容

1. 語順類型論(1):学問的背景
2. 語順類型論(2):主要部先行型と主要部後続型
3. 語順類型論(3):中国語の場合
4. 形態素・語・句(1):基本的な考え方
5. 形態素・語・句(2):形態素・語
6. 形態素・語・句(3):句
7. 品詞分類の問題点(1):中国語の品詞
8. 品詞分類の問題点(2):分類の問題点
9. 品詞分類の問題点(3):他言語との比較
10. 古代語と現代語の比較(1):介詞構造の語順
11. 古代語と現代語の比較(2):動目構造の語順
12. 古代語と現代語の比較(3):補語の発達
13. 古代語と現代語の比較(4):処置文の発達
14. 学習内容の確認:中国語の統語的特徴

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 6割以上の得点を合格の目安とする。

レポート	0%
平常点	30% 出席回数、授業に対するコメント等の提出物に基づいて判断する。
その他	10% 課題(宿題)等の提出物に基づいて判断する。

成績評価の方法・基準(備考)

学期末の確認試験やレポートなどの成績に平常点を勘案して、総合的に評価する。授業に取り組む姿勢を重視する。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- <テキスト>特に指定しない。PDFやプリントを使用する。
- <参考文献>
- ・北京大学中文系編『現代中国語総説』三省堂, 2004年
- ・朱徳熙著『文法講義』白帝社, 1995年
- ・S.R.ラムゼイ著『中国の諸言語一歴史と現況一』大修館書店, 1990年
- ・太田辰夫著『中国語歴史文法』江南書院, 1958年
- ・橋本萬太郎『漢民族と中国社会』山川出版社, 1983年初版

オフィスアワー

その他特記事項

授業参加を充実させるために、現地渡航経験を重ねていくことも中国語学研究のみならず、中国語本体のブラッシュアップにも寄与するので意欲的に取り組まれることをおすすめしたい。

参考URL

備考

この科目は教職(中国語)の必修科目です。

科目名: 中国文化概論A

担当教員: 榎本 泰子

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 月5

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-GC1-E207

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:5

更新者: AA0441

更新日時: 2026-01-12 09:10:3

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

中国言語文化専攻の学生で、3年次以降中国近現代文化演習(榎本)の履修を希望する人は、中国文化概論A/Bを履修しておくようにしてください。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

中国の歴史の大まかな流れをつかんだ後、具体的な事象や作品、歴史的イベントや問題点など、文化とそれを取り巻く状況をトピックごとに考察していきます。文献・映像・音声など、各種の資料を題材として、中国文化を多様な角度から見る姿勢を養います。

科目目的

中国の文化や社会を理解し、言語・文学・芸術などを深く研究していくための基本的知識を身に付けます。近代以降が主となりますが、近代以前の文化について言及することもありますし、日本や朝鮮半島、欧米との関連性にも注目します。

到達目標

中国を理解するための縦軸としての歴史と、横軸としての地理的特性を知ることが目標となります。具体的には、世界の動きの中で中国がどのように近代化を推し進め、伝統的な思想・文化がどのように変化してきたかについて、正確な知識を身に付けることを目指します。

授業計画と内容

- 1 ガイダンス・現代中国の概況
- 2 中国の歴史①前近代
- 3 中国の歴史②近現代
- 4 世界の中の中国と日本①前近代
- 5 世界の中の中国と日本②近代
- 6 世界の中の中国と日本③現代
- 7 映像作品から考える中国の文化①歴史の描き方
- 8 映像作品から考える中国の文化②「中華」の意識
- 9 映像作品から考える中国の文化③対外関係
- 10 中華民国期の文化:近代文化の形成と日中戦争
- 11 中華人民共和国建国期の文化:社会主義政権下の文学・芸術
- 12 改革開放政策以後の文化:商業化とグローバル化
- 13 今日の東アジアの文化的動向:「韓流」と「華流」
- 14 総括とまとめ

注:以上は、科目の目的に照らして、このようなトピックを中心に授業を進める可能性があるという「見込み」を示したものです。履修者の学習状況や、中国の社会・文化の動向に応じて、授業の進め方が変わる場合があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	30%	中国の歴史・文化・社会に関する基礎知識が身についているかを確認する試験です。
レポート	30%	テキストの内容や授業で解説された事柄を正確に理解し、課題に応じて適切に表現できているかを評価の基準とします。
平常点	40%	授業時の小レポート等に誠実に取り組んでいるかを重視します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

レポートを提出した者を、試験を受験する有資格者と見なします(試験を受験しただけでは、成績評価の対象になりません。)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 中国モダニズム研究会『中国現代文化14講』関西学院大学出版会、2014年。
履修者の学習状況にしたがって、他にテキストや参考文献を指定する可能性があります。詳細については授業時に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

私語、無断退出、指示によらない通信機器の使用を禁止します。

参考URL

備考

科目名: 中国文化概論B

担当教員: 榎本 泰子

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 月5

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-GC1-E208

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:5

更新者: AA0441

更新日時: 2026-01-12 09:22:0

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

中国言語文化専攻の学生で、3年次以降中国近現代文化演習(榎本)の履修を希望する人は、中国文化概論A/Bを履修しておくようしてください。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

中国文化概論Aで学んだ中国の歴史の大まかな流れを復習しつつ、各時代の状況や、文化界の動向をさらに深く理解するための授業です。中国の地理や民族、地域や都市ごとの特徴など、文化的事象の背景となる事柄についても学んでいきます。

科目目的

中国の文化や社会を理解し、言語・文学・芸術などを深く研究していくための基本的知識を身に付けます。近代以降が主となりますが、近代以前の文化について言及することもありますし、日本や朝鮮半島、欧米との関連性にも注目します。

到達目標

中国を理解するための縦軸としての歴史と、横軸としての地理的特性を知ることが目標とします。具体的には、世界の動きの中で中国がどのように近代化を推し進め、伝統的な思想・文化がどのように変化してきたかについて、正確な知識を身に付けることを目指します。

授業計画と内容

- 1 ガイダンス・現代中国の概況
- 2 中国の歴史と多様な民族文化①北方
- 3 中国の歴史と多様な民族文化②南方
- 4 都市文化と農村文化
- 5 都市と近代①上海租界の形成
- 6 都市と近代②上海モダン
- 7 都市と近代③メディアと戦争
- 8 中国の戯曲と音楽
- 9 映像作品から考える中国の文化①伝統と近代化
- 10 映像作品から考える中国の文化②文化・芸能の社会的地位
- 11 映像作品から考える中国の文化③文化と政治
- 12 中国の映画①歴史と作品
- 13 中国の映画②グローバル化とソフトパワー
- 14 総括・まとめ

注: 以上は、科目の目的に照らして、このようなトピックを中心に授業を進める可能性があるという「見込み」を示したものです。履修者の学習状況や、中国の社会・文化の動向に応じて、授業の進め方が変わる場合があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

中国の社会や文化について幅広い興味関心を養うために、新聞・テレビ・インターネットなどを通じて常に情報を収集するよう心がけてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	30%	中国の歴史・文化・社会に関する基礎知識が身についているかを確認する試験です。
レポート	30%	テキストの内容や授業で解説された事柄を正確に理解し、課題に応じて適切に表現できているかを評価の基準とします。
平常点	40%	授業時の小レポート等に誠実に取り組んでいるかを重視します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

レポートを提出した者を、試験を受験する有資格者と見なします(試験を受験しただけでは、成績評価の対象になりません。)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 中国モダニズム研究会『中国現代文化14講』関西学院大学出版会、2014年。
履修者の学習状況にしたがって、他にテキストや参考文献を指定する可能性があります。詳細については授業時に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

私語、無断退出、指示によらない通信機器の使用を禁止します。

参考URL

備考

科目名： 現代中国文学A

担当教員： 明田川 聡士

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-LT1-E209

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:54:0

更新者： AA2532

更新日時： 2025-12-13 21:35:2

授業形式

すべての授業回で、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本授業では中国の現代文学について学んでいきます。

現代中国文学の父として知られる国民的作家「魯迅」から、ノーベル文学賞受賞作家「莫言」まで、20世紀から21世紀にかけての中国の代表的作家とその代表作を取り上げます。現代中国文学の文学史的展開をたどると同時に、その作家が誕生し、作品が創作された背景に垣間見る中国の歴史的・社会的状況も探っていきます。

毎回の授業では、前半に各回テーマに関する事項について教員が解説し、後半は学生全員で作品内容について議論していきます。そのため、授業当日までに作品に目を通しておくことが【必須】です。

作品のコピーは前週までに配布します。講読作品は中国語原文の日本語訳を使います。講義終了時には作品の概要と所感を記述し、次回授業の冒頭で教員からフィードバックを行います。

科目目的

現代中国文学の代表的作家とその作品を知ることが目的とします。

到達目標

文学作品を鑑賞する読解力(インプット)、それを考察し分析する文章力(アウトプット)を身につけることを到達目標とします。

授業計画と内容

- 1 ガイダンス
- 2 魯迅とその作品
- 3 凌叔華とその作品
- 4 穆時英とその作品
- 5 蕭紅とその作品
- 6 梅娘とその作品
- 7 書評の合評
- 8 張愛玲とその作品
- 9 趙樹理とその作品
- 10 莫言とその作品
- 11 余華とその作品
- 12 閻連科とその作品
- 13 劉慈欣とその作品
- 14 授業総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

「事前学修」では当日の授業で扱う作品に【必ず】目を通し、「事後学修」ではレスポンス等に作品の概要と所感を記し、授業内で紹介した参考文献を探して読み込むようにして下さい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	1 課題への指示を正確にとらえて作成していること。 2 提出期限内に決められた様式で提出していること。 3 論述内容に主体性が表現できていること。
平常点	20%	1 事前学修として文献に目を通してしていること。 2 授業中の質問に対して積極的に応答していること。 3 事後学修としてレスポンス等に作品の概要と所感を規定の文字数で記していること。
その他	30%	1 中間レポートにあたる書評を提出していること。

成績評価の方法・基準(備考)

期末レポートの課題内容については、ガイダンスおよび授業の中で説明します。

配点については下記の通りです。

期末レポート50%(つまり、100点を50点満点に換算します)

- ・論述対象の選択は適切か 5点
- ・タイトルの設定は適切か 15点
- ・レポートとしての体裁を守っているか(要件を満たしているか、ページ脚注や文末脚注、参考文献、ページ番号があるか) 15点
- ・引用の仕方が適切か(剽窃は厳禁) 15点
- ・主体的に問題意識をもっているか、論理的な記述がなされているか(論理の飛躍、説明不足、事実の誤認には注意) 50点
- ・発展的な期待が持てるか(ゼミ報告や卒業論文などへの展開) 追加点

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クlickカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストとして、作品のコピーを配布します。

参考文献については、授業内で適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 現代中国文学B

担当教員： 明田川 聡士

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-LT1-E210

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:54:0

更新者： AA2532

更新日時： 2025-12-19 22:30:2

授業形式

すべての授業回で、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本授業では台湾文学について学んでいきます。

日本統治期の日本語文学から、現在の中国語文学まで、20世紀から21世紀にかけての台湾の代表的作家とその代表作を取り上げます。台湾文学の文学史的展開をたどると同時に、その作家が誕生し、作品が創作された背景に垣間見る台湾と東アジアの歴史的・社会的状況も探っていきます。

毎回の授業では、前半に各回テーマに関する事項について教員が解説し、後半は学生全員で作品内容について議論していきます。そのため、授業当日までに作品に目を通しておくことが【必須】です。

作品のコピーは前週までに配布します。講読作品は日本語原作あるいは中国語原文の日本語訳を使います。講義終了時には作品の概要と所感を記述し、次回授業の冒頭で教員からフィードバックを行います。

科目目的

台湾文学の代表的作家とその作品を知ることを目的とします。

到達目標

文学作品を鑑賞する読解力(インプット)、それを考察し分析する文章力(アウトプット)を身につけることを到達目標とします。

授業計画と内容

- 1 ガイダンス
- 2 頼和とその作品
- 3 楊達とその作品
- 4 王昶雄とその作品
- 5 呂赫若とその作品
- 6 白先勇とその作品
- 7 黄春明とその作品
- 8 書評の合評(李喬「皇民梅本一夫」)
- 9 朱天心とその作品
- 10 トパス・タナピマとその作品
- 11 黄錦樹とその作品
- 12 阮慶岳とその作品
- 13 余光中とその作品
- 14 授業総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	1 課題への指示を正確にとらえて作成していること。 2 提出期限内に決められた様式で提出していること。 3 論述内容に主体性が表現できていること。
平常点	20%	1 事前学修として文献に目を通してしていること。 2 授業中の質問に対して積極的に応答していること。 3 事後学修としてレスポンス等に作品の概要と所感を規定の文字数で記していること。
その他	30%	1 中間レポートにあたる書評を提出していること。

成績評価の方法・基準(備考)

レポートの課題内容については、ガイダンスおよび授業の中で説明します。

配点については下記の通りです。

期末レポート50%(つまり、100点を50点満点に換算します)

- ・論述対象の選択は適切か 5点
- ・タイトルの設定は適切か 15点
- ・レポートとしての体裁を守っているか(要件を満たしているか、ページ脚注や文末脚注、参考文献、ページ番号があるか) 15点
- ・引用の仕方が適切か(剽窃は厳禁) 15点
- ・主体的に問題意識をもっているか。論理的な記述がなされているか(論理の飛躍、説明不足、事実の誤認には注意) 50点
- ・発展的な期待が持てるか(ゼミ報告や卒業論文などへの展開) 追加点

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストとして、作品のコピーを配布します。

参考文献については、授業内で適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 中国文学講義(1)A**担当教員： 千田 大介**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-LT3-E401

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:0

更新者：AD1716

更新日時：2026-01-02 23:19:4

授業形式

すべての授業回について、対面授業を行う。

履修条件・関連科目等

履修条件は特に設けない。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中国語文献のデジタル化とデータベース情報検索技術やAIの発展によって、現在では手軽に情報を検索して「答え」を得ることができる。しかし、ネット検索ではあらゆる中国語文献を調査できるわけではなく、研究する上で役に立つ情報を得るためには個々の文献のテキストデータを入手して分析したり、学術データベースを検索したりする必要がある。本授業では、まず文献のデジタル化が学習や研究にもたらすメリットとデメリットについて検討し、その上で文献デジタル化の基盤となる文字コード、文献デジタル化の方法、さらには漢字の入力・検索方法について、その歴史的経緯と注意点を、情報処理の技術的な問題にあまり踏み込まないように留意しつつ解説する。その上で、オンライン・テキストデータ・アーカイブが構築された経緯や使い方、主要な学術データベースの特色などについて解説する。

科目目的

本講義の目的は、文字コードや漢字の入力方法などのコンピューターで中国語や漢字文献を処理するための基礎知識を身につけるとともに、さまざまなテキストアーカイブや中国古典文献データベースの設計思想を理解することで、研究に必要なデータを効率的に入手する方法を習得することにある。

到達目標

- 本講義では以下の3点を到達目標とする。
- (1)情報機器で漢字を扱うための基盤である文字コードの発展の過程と背景を理解する。
 - (2)電子テキストから必要な情報を得る方法を理解する。
 - (3)中国語圏における大規模文献データベースの現状と特色を理解する。

授業計画と内容

- 1.導入:デジタル化文献の種類と利点
- 2.文献の電子テキスト化と文字コード
- 3.日本JISコードをめぐって
- 4.中国・台湾の文字コードと漢字政策
- 5.1990年代の古典文献データとデータベース
- 6.漢字文献のデジタル化と研究利用
- 7.仏典のデジタル化
- 8.Unicodeの登場と拡張
- 9.中国のオンラインテキストアーカイブと文献CD-ROM
- 10.文献の電子化と著作権問題
- 11.文淵閣四庫全書全文検索版の衝撃
- 12.中国の古典文献データベース
- 13.文献画像の公開
- 14.授業の総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 講義内容の理解度に基づく。
レポート	0%
平常点	30% 授業の出席・参加状況に基づく。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは指定せず、資料を配布する。参考文献については授業内で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

中国語の資料を用いることもあるが、中国語未習者であっても履修に問題はない。

参考URL

備考

科目名： 中国文学講義(1)B**担当教員： 千田 大介**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-LT3-E402

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:0

更新者：AD1716

更新日時：2026-01-02 22:51:2

授業形式

すべての授業回について、対面授業を行う。

履修条件・関連科目等

履修条件は特にない。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中国の伝統演劇と地域文化

本講義では、中国の伝統演劇と地域文化の特色、形成過程などを取り扱う。

中国では各地でさまざまな伝統演劇が行われている。それらは、いずれも歌を中心に舞台が進行するオペラ形式であり、視覚的表現は似かよっているものの、節回しや方言の使用といった違いによって分類され、北京の京劇、江南の崑曲、陝西の秦腔、四川の川劇を始め、全国で250種以上が知られている。

本講義では、まず中国の伝統演劇の表現上の特色となっている、役まわり、扮装、虚実の表現などについて、具体的な映像資料を交えて解説する。その上で、各地の代表的な伝統演劇を取り上げ、地域性に留意しつつ、特色・形成過程などを考察する。また、中国の伝統演劇の形成や流通には、食文化のそれと一定程度の類似性が見出せるので、対比的に取り上げたい。

科目目的

本講義の目的は、中国の伝統演劇と食文化への検討を通じて、地域性に根差した伝統文化のあり方や特色への理解を深めることにある。

到達目標

本講義では以下の2点を到達目標とする。

- (1)中国伝統演劇の表現的特色や形成過程を理解し、近世における中国通俗文学史を読み解くための基礎的な知識を獲得する。
- (2)中国の文化が地域によって大きく異なることを理解し、地域文化の特色や形成過程、中央と地方との関係など、中国の文化・社会を考えるための視座を身につける。

授業計画と内容

1. 導入、京劇のしくみ1
2. 京劇のしくみ2
3. 京劇のしくみ3
4. 京劇の形成と北京料理
5. 崑曲の特色
6. 崑曲と蘇州
7. 越劇と上海
8. 陝西・山西と秦腔・梆子劇
9. 陝西・山西の地域性
10. 川劇の音楽と表現
11. 清代四川と移民
12. 粵劇と広東・香港
13. 台湾の布袋戲と霹靂布袋戲
14. 授業の総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業で紹介された資料を閲覧し、また課題の提出を求められた時は授業内容を復習して課題を作成する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 講義内容の理解度に基づく。
レポート	0%
平常点	30% 授業の出席・参加状況に基づく。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは用いず、資料を配布する。参考資料については教場で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

中国語の資料を用いることもあるが、中国語未習者であっても履修に問題ない。

参考URL

備考

科目名： 中国文学講義(2)A**担当教員： 宮入 いずみ**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-LT3-E403

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:0

更新者：AB3664

更新日時：2025-12-30 19:11:1

授業形式

すべての授業回について、面接(対面)授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、中国文学について学びます。古典と現代文学の違いから少々文学史的な概説をした上で、近・現代文学を扱い、代表的な作家と作品を取り上げます。
毎回の授業では、各回の内容に関する事項について解説し、作家を紹介し作品を読み、またその一部を原文で読んでみようと思います。
講義終了時には、作品の概要と感想などを手書きで指定用紙に記述してもらいます。
なお、授業内では必要に応じて映画などの映像資料も使用します。

科目目的

中国文学の文学史的な知識をもとにそれぞれの作家の人となり、作品についての理解を深めることを目的とし、また当時の中国の社会状況やそこに生活していた人々の姿を通して、中国をより深く知ることへとつなげていきます。

到達目標

文学作品を通して、作品鑑賞力と分析する力、またその結果を文章化する力を身につけること。

授業計画と内容

1. ガイダンス(授業の進め方など・資料の配布)
2. 近現代文学への道・近現代文学①魯迅 許地山 茅盾 老舍 巴金
3. 近現代文学②作品を読む 魯迅「小さな事件」「故郷」など
4. 近現代文学③作品を読む 許地山「落花生」「春桃」など
5. 近現代文学④作品を読む 茅盾「子夜」「林商店」など
6. 授業内小レポート1
7. 近現代文学⑤作品を読む 老舍「駱駝祥子」「黒李と白李」など
8. 近現代文学⑥作品を読む 巴金「家」「三日月」など
9. 近現代文学⑦張愛玲 蕭紅 陶晶孫
10. 近現代文学⑧作品を読む 張愛玲「色・戒」「封鎖」など
11. 近現代文学⑨作品を読む 蕭紅「家族以外の人」「商市街」など
12. 授業内小レポート2
13. 映像鑑賞
14. 近現代文学⑩作品を読む 陶晶孫「日本への遺書」など・期末レポートについて

*あくまでも授業計画であって、諸般の事情で内容が変わることもあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	90% 授業内小レポート2回(40%)期末レポート(50%) 1、課題への指示を正確にとらえて作成していること。 2、提出期限内に、決められた様式で提出していること。 3、論述内容に主体性が表現できていること。
平常点	10% 毎回の授業後のリアクション内容が妥当であること。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

欠席回数が5回以上となった場合、原則として不可。

レポートの課題内容については、ガイダンスおよび授業の中で説明します。

1授業内小レポート2回は、1200字以上1600字以内で手書き、授業中内に課題を読んで書いてもらいます。誤字/脱字、改行していないものは減点します。

2期末レポートは、6月下旬ごろ出題します。

提出はmanabaにワードで出してもらいます。分量は2000字以上3600字以内とします。

- ・タイトルは自分でつけること。つけてないものは減点します。
- ・レポートとしての体裁(引用の仕方・参考文献など)がきちんとしていること。誤字/脱字、改行していないものは減点します。
- ・他人の意見を自分の意見のように書いているものは不可。
- ・チャットGPTやAIなどを使わないこと。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

レジュメや原文の資料を配布する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 中国文学講義(2)B**担当教員： 宮入 いずみ**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-LT3-E404

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:0

更新者：AB3664

更新日時：2025-12-30 19:12:1

授業形式

すべての授業回について、面接(対面)授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、主に文化大革命以降の当代文学、台湾文学および「満洲国」の文学を取り扱います。時代背景と文学史の概説ののち、毎回の授業では、各回の内容に関する事項について解説し、作家を紹介し、作品を読み、またその一部を原文で読んでみようと思います。講義終了時には、作品の概要と感想などを手書きで指定用紙に記述してもらいます。なお、授業内では必要に応じて映画などの映像資料も使用します。

科目目的

中国文学の文学史的な知識をもとにそれぞれの作家の人となり、作品についての理解を深めることを目的とし、また当時の中国の社会状況やそこに生活していた人々の姿を通して、中国をより深く知ることへとつなげていきます。

到達目標

文学作品を通して、作品鑑賞力と分析する力、またその結果を文章化する力を身につけること。

授業計画と内容

1. ガイダンス(授業の進め方・資料配布)当代文学への道 莫言 王安憶 李馮 SF新時代
2. 当代文学①作品を読む 莫言「白い犬とブランコ」など
3. 当代文学②作品を読む 王安憶「雨、沙沙沙」「終着駅」など
4. 当代文学③作品を読む 李馮「もうひとりの孫悟空」など
5. 当代文学④作品を読む SF作品
6. 映像鑑賞
7. 授業内小レポート1
8. 台湾文学①日本植民地下の文学について
9. 台湾文学②作品を読む 張系国「星雲組曲」から
10. 台湾文学③作品を読む 女性作家李昂／原住民族シャマン・ラポガン
11. 授業内小レポート2
12. 「満洲国」文学①「満洲国」とは
13. 「満洲国」文学②日本人の作家 長谷川えい(ヰ+睿) 牛島春子など
14. 「満洲国」文学③中国人の作家 古丁 爵青など 期末レポートについて

*あくまでも計画であって、諸般の事情によって内容が変わることがあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	90%	授業内小レポート2回(40%) 期末レポート(50%) 1、課題への指示を正確にとらえて作成していること。 2、提出期限内に、決められた様式で提出していること。 3、論述内容に主体性が表現できていること。
平常点	10%	授業後の質問に対するリアクション内容が妥当であること。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

欠席回数が5回以上となった場合、原則として不可。

レポートの課題内容については、ガイダンスおよび授業の中で説明します。

1授業内小レポート2回は、1200字以上1600字以内で手書き、授業中内に課題を読んで書いてもらいます。誤字/脱字、改行していないものは減点します。

2期末レポートは、12月下旬ごろ出題します。

提出はmanabaにワードで出してもらいます。分量は2000字以上3600字以内とします。

- ・タイトルは自分でつけること。つけてないものは減点します。
- ・レポートとしての体裁(引用の仕方・参考文献など)がきちんとしていること。誤字/脱字、改行していないものは減点します。
- ・他人の意見を自分の意見のように書いているものは不可。
- ・チャットGPTやAIなどを使わないこと。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

レジュメ・資料を配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 中国語学講義(1)A

担当教員: 遠藤 雅裕

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 木4

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-LG3-E405

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:54:0

更新者: AA9706

更新日時: 2026-01-02 12:51:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中国語圏(中国・香港・台湾など)では、標準中国語のみが使用されているわけではなく、実際は非常に多様な言語がつかわれている。本講義では、漢諸語(標準中国語(普通話)および中国語方言)について、音韻・語彙・文法等の特色および地理的分布を中心にあつかう。まず、漢諸語の概略を紹介し、その後、国際音声字母(IPA)や伝統的な音韻学の枠組みなど、漢諸語を理解するために不可欠である知識・技術を実習を交えつつ学ぶ。そのうえで、音韻史との関連で標準中国語の基礎方言である現代の官話方言を確認する。その後、香港・広東省の主要言語である広東語について、現代の標準中国語や古典中国語等と対照させながら、その音韻・語彙・文法の各側面について紹介する。広東語をめぐる社会・政治的状況や非漢語(少数民族語等)にも適宜ふれる予定である。

科目目的

東アジア地域の主要言語群である漢諸語内部の音韻・語彙・文法面などの多様性を理解する。

到達目標

- (1) 漢諸語理解のための基礎知識(IPA・音韻学の概要・文法用語等)を理解する。
- (2) 漢諸語のうち、官話方言の多様性と、粵語の音韻・語彙・文法について標準中国語との相違点を理解する。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 漢諸語の概要
- 第3回 漢諸語の成立仮説
- 第4回 中国の「標準語」と「方言」(近現代中国における標準語の制定過程)
- 第5回 音声学(1)(IPAの解説と訓練: 調音器官・子音)
- 第6回 音声学(2)(IPAの解説と訓練: 母音)
- 第7回 音韻学(中古音(『切韻』音系)解説・中古音と北京官話)
- 第8回 官話方言の概要および膠遼官話について/粵閩客語の共通特徴
- 第9回 粵語(広東語)の概要: 分布と音韻
- 第10回 粵語(広東語)音韻(つづき)と語彙
- 第11回 粵語(広東語)文法(名詞句と動詞句)
- 第12回 粵語(広東語)文法(疑問文・アスペクト標識)
- 第13回 粵語(広東語)文法(動補構造・助動詞)
- 第14回 粵語(広東語)文法(受動・使役・処置文など)と総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	基礎的知識、および官話と粵語の言語的特徴の理解度を基準とする。
レポート	0%	
平常点	50%	課題の提出状況等で判断する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

状況に応じて成績評価の基準を若干変更する可能性がある。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クlickカー
タブレット端末

- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

ウェブ上の公開されているリソースの活用をする。たとえば、東京外国語大学言語モジュールや台湾の客家委員会のサイトを利用する。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業では教員作成の資料をmanaba上で配布する。また参考書として下記のを推薦する。その他の参考文献は教室で適宜指示する。
S.R.ラムゼイ著『中国の諸言語－歴史と現況－』大修館書店
西田龍雄著『東アジア諸言語の研究 I』京都大学学術出版会
ウェブサイトについてはmanabaなどで紹介する予定。

オフィスアワー

その他特記事項

- (1) 本講義では主として繁体字を用います。
- (2) 授業計画は進捗状況などによって多少の変更をおこなう可能性があります。
- (3) 本講義は語学の授業ではありませんので、広東語等対象言語の語学的訓練はおこないません。
- (4) 他学部の方で、履修登録後にミスマッチであることに気づくケースがあります。シラバスを熟読の上、履修を決めてください。
- (5) 連絡先: mendo001z@g.chuo-u.ac.jp

参考URL

備考

科目名: 中国語学講義(1)B

担当教員: 遠藤 雅裕

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 木4

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-LG3-E406

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:54:0

更新者: AA9706

更新日時: 2026-01-02 12:53:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中国語圏(中国・香港・台湾など)では、標準中国語のみが使用されているわけではなく、実際は非常に多様な言語がもちいられている。本講義では、春学期に学習した知識・内容をふまえ、漢諸語(標準中国語および中国語方言)のうち、台湾で使用されている土着漢語である台湾閩南語(台湾語)および客家語(特に台湾海陸客家語)の音韻・語彙・文法の各側面について、現代の標準中国語や古典中国語等も参照しながら解説をおこない、これらの言語に対する理解を深める。さらに、これらの言語をめぐる社会・政治的状況にも、適宜ふれる予定である。

科目目的

東アジア地域の主要言語である漢諸語内部の音韻・語彙・文法面などの多様性を理解する。

到達目標

台湾閩南語および海陸客家語の音韻・語彙・文法について、特に標準中国語との相違点を把握する。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンスと春学期の復習
- 第2回 閩語の概要: 分布と音韻
- 第3回 台湾閩南語: 音韻
- 第4回 台湾閩南語: 語彙
- 第5回 台湾閩南語: 文法(代詞・名詞句・動詞句)
- 第6回 台湾閩南語: 文法(疑問文・アスペクト)
- 第7回 台湾閩南語: 文法(動補構造・比較文・処置文・使役文など)および総括
- 第8回 客家語の概要
- 第9回 海陸客家語: 音韻
- 第10回 海陸客家語: 語彙
- 第11回 海陸客家語: 文法(代詞・名詞句)
- 第12回 海陸客家語: 文法(動詞句・アスペクト)
- 第13回 海陸客家語: 文法(動補構造・比較文・処置文・使役文など)
- 第14回 海陸客家語: 総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 台湾閩南語・客家語等の南方漢語の特徴の理解度を基準とする。
レポート	0%

平常点 50% 課題の提出状況等で判断する。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

状況に応じて成績評価の基準を若干変更する可能性がある。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

ウェブ上の公開されているリソースの活用をする。たとえば、東京外国語大学言語モジュールや台湾の客家委員会のサイトを利用する。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業では教員作成の資料をmanaba上で配布する。また参考書として下記のものを推薦する。その他の参考文献は教室で適宜指示する。
S.R.ラムゼイ著『中国の諸言語－歴史と現況－』大修館書店
西田龍雄著『東アジア諸言語の研究Ⅰ』京都大学学術出版会

オフィスアワー

その他特記事項

- (1) 本講義では主として繁体字を用います。
- (2) 授業計画は進捗状況などによって多少の調整をおこなう可能性があります。
- (3) 本講義は語学の授業ではありませんので、台湾閩南語や客家語などの語学的訓練はおこないません。
- (4) 他学部の方で、履修登録後にミスマッチであることに気づくケースがあります。シラバスを熟読の上、履修を決めてください。
- (5) 連絡先: mendo001z@g.chuo-u.ac.jp

参考URL

備考

科目名： 中国語学講義(2)A

担当教員： 荒木 典子

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 水3

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-LG3-E407

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:54:0

更新者： AD1407

更新日時： 2025-11-18 14:20:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この講義では中国語(漢語)、特に白話と称される口頭語の歴史の変遷を学びます。20世紀前半から17世紀まで遡り、実例に基づいて漢語の語彙、語法における変化を体感します。

様々な方言や少数民族の言語がある中で、多くの人を楽しませた「中国文学」が育まれるには、多くの人が「読める」言語があったはずで
す。
特に印刷技術の発展した明、清代を中心に発展した「白話小説」(口頭語に近い文体で書かれた小説)は、近代漢語のカテゴリーの中で研究されてきました。
この授業では、実際に白話で書かれた文献、白話が使用されている文献を、講師の解説のもとで読み進めながら、現代語との違い、書き言葉とは異なる白話の特徴や役割を学びます。

履修の目安は、中国語学習歴2年程度です。

科目目的

- ・漢語の時間的、空間的広がりを知る。漢語語法・語彙歴史の変遷を知り、現代中国語(普通話)に至るまでの過程を知る。
- ・漢語の白話資料には何があり、それぞれどのような言語的特徴を持ち、漢語学史上どのような意義があるのかを知る。

到達目標

- ・普通話よりも少し古い(数百年前)の文献が読めるようになる。
- ・中国の「小説」の構造の歴史の変遷がわかる。
- ・漢語とその周辺言語の接触について理解できる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 20世紀初:『離婚』前半
- 第3回 『離婚』後半、『離婚』の言語
- 第4回 清代:『儿女英雄伝』予備知識と前半
- 第5回 清代:『儿女英雄伝』後半、小説の構造
- 第6回 清代:『品花宝鑑』予備知識と前半
- 第7回 清代:『品花宝鑑』後半、清代の北京語
- 第8回 清代:『紅樓夢』予備知識と前半
- 第9回 清代:『紅樓夢』後半、『紅樓夢』の言語の特徴
- 第10回 明代:『金瓶梅』予備知識と前半
- 第11回 明代:『金瓶梅』後半、『金瓶梅』の言語の特徴
- 第12回 明代:『老乞大』予備知識、『老乞大(諺解)』前半
- 第13回 明代:『老乞大』後半、言語接触について
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

担当講師の解説を聞きながら実際に文献を読んでいきます。全文を日本語訳しておく必要はありませんが、事前にテキストや参考資料に目を通し、大まかな内容を把握しておいてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	なし
期末試験	60%	学期末に理解度を確かめる試験を行う。
レポート	0%	なし
平常点	40%	毎回課題を出します。
その他	0%	出席。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト①太田辰夫②『新訂 中国歴代口語文』③朋友書店、2024年、京都 ④2024年 ⑦ISBN978-4-89281-003-1 C3087
※秋学期・中国語学講義(2)Bと同一。

参考文献
『趙さんの哲学 離婚』竹中伸訳 学習研究社
『児女英雄伝』立間祥介訳 平凡社
『紅樓夢』伊藤漱平訳 平凡社
『金瓶梅』小野忍・千田九一訳 岩波文庫
『新訳 金瓶梅』田中智行訳 鳥影社

オフィスアワー

その他特記事項

秋学期・中国語学講義(2)Bと連続した内容です。両方受講することをお勧めします。

参考URL

備考

科目名： 中国語学講義(2)B**担当教員： 荒木 典子**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水3

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-LG3-E408

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:0

更新者：AD1407

更新日時：2025-11-18 14:21:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この講義では中国語(漢語)、特に白話と称される口頭語の歴史の変遷を学びます。14世紀から10世紀まで遡り、実例に基づいて漢語の語彙、語法における変化を体感します。

様々な方言や少数民族の言語がある中で、多くの人を楽しませた「中国文学」が育まれるには、多くの人が「読める」言語があったはずで
す。
特に印刷技術の発展した明、清代を中心に発展した「白話小説」(口頭語に近い文体で書かれた小説)は、近代漢語のカテゴリーの中で研究されてきました。
この授業では、実際に白話で書かれた文献、白話が使用されている文献を、講師の解説のもとで読み進めながら、現代語との違い、書き言葉とは異なる白話の特徴や役割を学びます。

履修の目安は、中国語学習歴2年程度です。

科目目的

- ・漢語の時間的、空間的広がりを知る。漢語語法・語彙歴史の変遷を知り、現代中国語(普通話)に至るまでの過程を知る。
- ・漢語の白話資料には何があり、それぞれどのような言語的特徴を持ち、漢語学史上どのような意義があるのかを知る。

到達目標

- ・普通話よりも少し古い(数百年前)の文献が読めるようになる。
- ・中国の「小説」の構造の歴史の変遷がわかる。
- ・漢語とその周辺言語の接触について理解できる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 元代:『孝経直解』予備知識、前半
- 第3回 元代:『孝経直解』後半、元代の言語接触
- 第4回 元代:『漢宮秋』予備知識、前半
- 第5回 元代:『漢宮秋』後半、元曲の言語
- 第6回 宋・元代:『大唐三蔵取経詩話』予備知識、前半
- 第7回 宋・元代:『大唐三蔵取経詩話』後半、『西遊記』になるまで
- 第8回 宋代:『朱子語類』予備知識、前半
- 第9回 宋代:『朱子語類』後半、語録の言語
- 第10回 宋代:『三朝北盟会編』予備知識、前半
- 第11回 宋代:『三朝北盟会編』後半、北方言語との接触
- 第12回 五代:『祖堂集』予備知識、前半
- 第13回 五代:『祖堂集』後半、語録の言語(2)
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

担当講師の解説を聞きながら実際に文献を読んでいきます。全文を日本語訳しておく必要はありませんが、事前にテキストや参考資料に目を通し、大まかな内容を把握しておいてください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	なし
期末試験	60%	学期末に理解度をはかる試験をします。
レポート	0%	なし。
平常点	40%	毎回課題を出します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト①太田辰夫②『新訂 中国歴代口語文』③朋友書店、2024年、京都 ④2024年 ⑦ISBN978-4-89281-003-1 C3087

※春学期・中国語学講義(2)Aと同一。

オフィスアワー

その他特記事項

春学期・中国語学講義(2)Aと連続した内容です。両方受講することをお勧めします。

参考URL

備考

科目名： 中国文化講義(1)A

担当教員： 川野 明正

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-GC3-E409

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:54:0

更新者： AB9682

更新日時： 2026-01-11 08:42:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「アジアの〈狛犬〉論」ともいべき講義科目です。魔除けの獅子像の展開をアジア全域に探ります。講義の主題上、中国での獅子像の展開が主軸ですが、オリエント・インドから東アジア・日本へと、ライオン・獅子像が狛犬として日本で成立するまでの文化的伝播を追い、それと同時に東シナ海・南シナ海文化圏での石彫りの犬像・獅子像も追い、ヴェトナム北部から沖縄・九州を含めた獅子像の比較文化論を展開していきます。

日本の狛犬と似た魔除けのライオン・獅子像は、アジア各地に共通する文化表象といえ、それは宗教的な差違をも越え、アジア親睦のアイコンともいべき親しみささえもっています。アジアを多様性の相の下に理解することの一助として、獅子像の展開を論じていきます。

科目目的

獅子像の伝播と中国各地、東南アジア・東アジア(朝鮮半島・琉球・日本)特有の獅子像の成立について講義し、中国語圏の信仰からみた中国人(華人含む)の精神的内実のあらましを理解する。

到達目標

ユーラシアでの霊獣像の伝播を中心として、日本も含む霊獣信仰上の諸観念の関係性について理解する。

授業計画と内容

- 第1回. レクチャー
- 第2回. オリエント・インドの獅子像と獅子座
- 第3回. 中国の獅子系霊獣の系譜—後漢・魏晋南北朝南朝の陵墓獅子の系譜
- 第4回. 魏晋南北朝の仏教的獅子像の受容—ガンダーラから雲崗石窟へ
- 第5回. 唐代陵墓獅子の展開
- 第6回. 東南アジアのシンハー・ボロブドゥール遺跡・アンコール遺跡・タイ・ミャンマー
- 第7回. 東南アジアの中国石獅
- 第8回. 中国石獅の地方類型(1)—中国北部(陝西省の「獅子狗」など)
- 第9回. 中国石獅の地方類型(2)—中国南部(浙江・福建・広東各省の獅子像)
- 第10回. 金門島の石獅爺と風獅爺
- 第11回. 広東南部雷州半島の「石狗」とヴェトナムの「狗石」
- 第12回. 沖縄の村落シーサーと風水説
- 第13回. 日本の「狛犬」とその歴史
- 第14回. 宋風獅子・肥前狛犬と東シナ海文化圏

※以上はおおよその目安であり、授業であつかう予定のトピックをあげたものである。授業の進度や履修者の関心によって、講義の進め方を変更する場合もありうる。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	レポートは、的確な論述と受講生の洞察・考察の深さで判断する。
平常点	30%	授業でのリアクションを毎回とる。 【重要注意事項!】授業の際に出席をとることがあるが、出席調査に一度も出席記録がない場合は成績評価の対象外となる。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

マナバの活用

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
特に指定しない。マナバ上でプリントを配布する。
<参考文献>
川野明正(監修)・ミノシマタカコ(著)『狛犬さんぽ』グラフィック社、2020年
川野明正(監修)『東京周辺 神社仏閣どうぶつ案内 神使・眷属・ゆかりのいきものを巡る』メイツユニバーサルコンテンツ、2019年
上杉千郷(編)『狛犬事典』戎光祥出版、2001年
上杉千郷(著)『日本全国獅子狛犬ものがたり』戎光祥出版、2008年

オフィスアワー

その他特記事項

レポートに「体育会〇〇部」など無関係の記述を記載した場合は評価の対象外となるので注意すること。

参考URL

備考

科目名： 中国文化講義(1)B

担当教員： 川野 明正

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-GC3-E410

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:54:0

更新者： AB9682

更新日時： 2026-01-11 08:43:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「中国妖怪学講義」。この講義では「中国の民間信仰」をテーマとし、「神」・「祖先」・「鬼」(鬼怪)・「精」(精怪)をキーワードに民間信仰上の民俗観念について概観し、中国人の冥界観のありかたを探究していきます。具体的には、「霊的な毒物」の信仰ともいうべき「蠱毒」信仰や、脱魂的な生霊ともいうべき「鬼人」信仰や、恋の惚れ薬である「恋薬」の伝承、天上の犬精である「天狗」(てんのいぬ)、人間にとり憑く霊的な虫類である「蠱毒」(ごどく)、異民族の鬼人イメージの変遷などを取り上げ、中国人の民間信仰のありかたのなかでの位置づけ、とりわけ冥界観の全体像のなかでの位置づけを試みます。中国南部の漢民族・非漢民族に広く伝わる呪術的観念の実態に迫り、中国南部の人々の心性のありかたを垣間見てみたいと思います。

科目目的

「中国妖怪学」ともいうべき授業です。妖怪や民俗神の信仰や伝承の基本構造を理解し、中国語圏の精神世界について、民俗的側面から理解します。

到達目標

日本を含む東アジアの民間信仰上の心性について、一定の認識と理解を得る。

授業計画と内容

- 第1回. 中国の地理と気候と文化的多様性
- 第2回. 民族からみた中国文化の多様性(雲南省を事例として)
- 第3回. 総論:中国人の冥界観—「神」と「鬼」「精」との動的な関係
- 第4回. 雲南省の神像呪符「甲馬子」からみる雲南漢族・白族の妖怪・民俗神
- 第5回. 精怪論(1)—山魃について
- 第6回. 精怪論(2)—五通神について
- 第7回. 精怪論(3)—現代の五通神伝承
- 第8回. 精怪論(4)—厄災・不妊の原因としての「天狗」
- 第9回. 精怪論(5)—子授けの神「張仙」と天狗祓い
- 第10回. 蠱毒論(1)—魏晋南北朝時代と宋代の異民族イメージと「蠱毒」
- 第11回. 蠱毒論(2)—明・清代の異民族イメージと「蠱毒」
- 第12回. 蠱毒論(3)—恋愛呪術における蠱毒と異民族イメージ
- 第13回. 鬼怪論(1)—中国諸民族の生霊信仰
- 第14回. 鬼怪論(2)—「鬼」としての異民族イメージ

※以上はおおよその目安であり、授業であつかう予定のトピックをあげたものである。授業の進度や履修者の関心によって、講義の進め方を変更する場合もありうる。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	80%	授業内容に関するレポートを課して評価する。
レポート	0%	
平常点	20%	授業のリアクションを毎回とる。 【重要注意事項!】授業の際に出席をとることがあるが、出席調査に一度も出席記録がない場合は成績評価の対象外となる。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

マナバの活用

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

中国語通訳を中国国内で経験している。

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
特に指定しない。マナバ上で講義レジュメを配布する。
<参考文献>
川野明正『中国の〈憑きもの〉—華南地方の蠱毒と呪術的伝承』風響社, 2005年
川野明正『神像呪符〈甲馬子〉集成—中国雲南省漢族・白族民間信仰誌』東方出版, 2005年
渡邊欣雄『漢民族の宗教—社会人類学的研究』第一書房, 1991年
文彦生(編)・鈴木 博(訳)『鬼の話(上・下)』青土社, 1997年

オフィスアワー

その他特記事項

魍魎魍魎が跳梁跋扈する授業ですが、何ら恐れる必要はありません。
レポートに「体育会〇〇部」など、論述に関係ない記述をした場合、評価対象外となる。
出席が一度もない者は評価対象外となる。

参考URL

備考

科目名： 中国文化講義(2)A**担当教員： 陸 偉榮**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 金3

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-GC3-E411

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:0

更新者：AB6301

更新日時：2025-11-27 18:22:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中国美術の歴史は長く、日本や韓国など周辺国の美術にも多大な影響を及ぼし、特に南北朝時代以降の仏教美術や絵画、陶磁器、書などは日本の飛鳥時代から江戸時代までの美術の起源といえる。授業では東洋絵画の作品をもとに各時代の歴史と作品を通してそれらの東洋美術の特徴を理解しながら、東アジア・日本のそれと比較も行ない、その差異についても考えてみたい。

科目目的

本講義は、前期では古典中国美術を、作品を中心に考え、近代までの中国美術の流れはどのように展開してきたかを理解するためのものである。本講義で学ぶのは、現代中国美術の基礎知識で、アプローチとしては具体的な美術作品を中心にできるだけ分かりやすく解説していく。

到達目標

授業スライドを通して東洋・中国美術の古今の名作群を鑑賞し、その素晴らしさを理解できるようになる。また、東洋・中国美術鑑賞のための基礎知識を習得し、さまざまな美術展・芸術展での鑑賞力・作品理解力アップを目指し、学習者なりの見識が説明できるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 (導入・中国絵画の見方、兵馬俑、「洛神賦」)
- 第2回 書の流れ、唐代絵画、「唐宮仕女図」、「韓熙載夜宴図」
- 第3回 北宋の絵画「谿山行旅図」「早春図」「清明上河図」、
- 第4回 (彫刻) 仏教美術、(工芸) 宋の磁器
- 第5回 南宋時代の様式(馬遠と夏珪)、元代絵画、趙孟頫「鵲華秋色図」、元末四大家、黄公望の「富春山居」
- 第6回 明代絵画、戴進、沈周、文徵明、董其昌と「南北絵画論」、清代絵画
- 第7回 郎世寧「百駿図」、洋風画
- 第8回 揚州八怪から清末へ、美術の商業化
- 第9回 海上派の絵画
- 第10回 五四運動と美術革命
- 第11回 近代の洋画運動
- 第12回 魯迅と版画、近代の漫画
- 第13回 日中戦争時の美術、延安の美術
- 第14回 まとめ、試験

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

時代背景を把握する必要があるため、各自で中国歴史関係の本を読んでほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	100%	期末試験。指定教科書のみ持ち込み可能です。 穴埋め50～60%、論述40～50%
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- ※1 病気や就職などの理由で欠席する場合、授業担当の先生にご相談のうえ、関係資料を提示してください。
- ※2 正当な理由がなく、3回以上の欠席は評価の対象外となる。
- ※3 正当な理由がなく、4回以上の遅刻は評価減点される。(1回-5点)
- ※4 出席をとった後、無断早退・退室の場合、欠席扱いになる。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

科目性質上「講義」となっております。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト 『水墨画の世界』東西美術研究会 2022年
(中央大学生協扱う)
その他、初回の授業中で指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

中国文化講義(2)Bと連動している科目なので併せて履修することを勧めます。

参考URL

備考

科目名： 中国文化講義(2)B

担当教員： 陸 偉榮

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 金3

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-GC3-E412

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:54:0

更新者： AB6301

更新日時： 2025-11-27 18:25:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義は、中国近現代社会において政治や経済・社会情勢とのかかわりの中で、中国美術・造形藝術がどのように発展・変貌してきたかを、代表的な実作品に即して理解することを目標にしています。また、それを通して現代中国文化を理解する枠組みも身につけられるような狙いをも内包しています。

時代順にアヘン戦争から辛亥革命・五四運動、一九二〇・三〇年代、日中戦争・内戦期、新中国、一九九〇年代と区切り、それぞれの特徴を考えていく。講述と画像で授業を進めるが、多くの作品を使って分かりやすく、具体的・視覚的な講義を行ってまいります。

科目目的

本講義は、近代から現代までの中国美術の流れはどのように展開してきたかを理解するためのものです。本講義で学ぶのは、現代中国美術の基礎知識で、アプローチとしては具体的な美術作品を中心にできるだけ分かりやすく解説していきます。

近年になって、中国の現代アートの紹介も比較的活発になっているが、こうした紹介は文革時代以後のものに限られていますし、また近代に始まる歴史説明も不十分と思われる。この講義を通じて、近現代中国の美術や文化への理解も深めることができると考えます。

到達目標

スライドや資料を通して東洋・中国美術の古今の名作群を鑑賞し、その素晴らしさを理解できるようになります。また、東洋・中国美術鑑賞のための基礎知識を習得し、さまざまな美術展・芸術展での鑑賞力・作品理解力アップを目指し、学習者なりの見識が説明できるようになります。

授業計画と内容

- 第1回 古典中国美術の名作(導入・前期内容の確認)
- 第2回 京津派、嶺南派と近代日本画
- 第3回 豊子愷と竹久夢二① 日中戦争以前の作品
- 第4回 豊子愷と竹久夢二② 日中戦争後の作品
- 第5回 美術家協会、ソ連式の美術教育
- 第6回 伝統絵画と「水墨写実」
- 第7回 新中国の革命歴史画
- 第8回 新年画の展開
- 第9回 文化大革命時代の美術
- 第10回 農民画、転換期の美術
- 第11回 星星美術展、四川リアリズム
- 第12回 85美術運動、転換期の革命歴史画
- 第13回 90年代の中国現代美術、中国の美術オークション
- 第14回 まとめ、試験

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

時代背景を把握する必要があるため、各自で中国歴史関係の本を読んでほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	100%
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

期末試験。指定教科書のみ持ち込み可能。
穴埋め50~60%、論述40~50%

成績評価の方法・基準(備考)

- ※1 病気や就職などの理由で欠席する場合、授業担当の先生にご相談のうえ、関係資料を提示してください。
- ※2 正当な理由がなく、3回以上の欠席は評価の対象外となる。
- ※3 正当な理由がなく、4回以上の遅刻は評価減点される。(1回-5点)
- ※4 出席をとった後、無断早退・退室の場合、欠席扱いになる。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

科目性質上「講義」となっております。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト『中国近現代美術』、東西美術研究会、2022年
(大学生協で扱う)
その他、初回の授業中で指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

中国文化講義(2)Aと連動している科目なので併せて履修することを勧めます。

参考URL

科目名： 中国文化講義(3)A**担当教員： 麻生 晴一郎**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：木3

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-GC3-E413

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:0

更新者：AD1692

更新日時：2025-12-30 22:24:1

授業形式

対面形式で行います。

履修条件・関連科目等

特にありませんが、中国・台湾・香港に関心のあることが前提です。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代中国における市民活動の現状と日本との交流について学んでいきます。前期に開講する本講義「中国文化講義(3)A」は市民活動の前提となる「自由」や「民主」に力点を置き、続く後期の「中国文化講義(3)B」では日本との交流に力点を置く形で、前期後期を通じての内容となりますが、前期のみ、後期のみでも理解することができますようにします。授業は下記「授業計画と内容」にあるテーマに沿って、前半に講義を行い、後半には「意見・質問の時間」を設け、受講者の興味や疑問に沿って現代中国を考えてみたいと思います。

科目目的

デモや規制など、今の中国で起きている社会的な出来事を把握するための、背景となる問題意識を探り、合わせて中国のそうした社会変化に、日本にいる人がいかに関わることができるかを考えていきます。

到達目標

今の中国社会に関するさまざまなニュースをなるべく偏りなく見ることができること、中国の社会や人と関わる上で知っておくべきことを身に付けることを、到達目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 「中国への親しみ」と中国報道
- 第2回 現在の中国における言論・集会への規制のとらえ方
- 第3回 1980年代の中国は今とどう違うか？
- 第4回 1990年代におけるフリーの登場
- 第5回 1990年代に進んだ私的領域の自由化とその限界
- 第6回 2000年代における市民意識の台頭
- 第7回 2010年代の規制強化を2000年代の社会から見る
- 第8回 中国独自の価値観とは
- 第9回 中国的価値観から見る「民主」
- 第10回 中国的価値観から見る「和」
- 第11回 中国的価値観から見る「自由」
- 第12回 2010年代における労働運動
- 第13回 中国の市民活動と若者
- 第14回 中国社会における「自由」を日本と比較する

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回「意見・質問の時間」に意見・質問を述べてもらうか用紙に書いて授業終了後に提出してもらい、出席・提出点といたします(受講者数によって変更の可能性あり)。意見・質問は、中国への造詣が深いことを必ずしも要求せず、講義内容を踏まえた上で、日ごろ自分が学習や生活の中で知ったこと、感じたことに突き合わせてみるような内容を望みます。そのため授業開始前に、あらかじめ毎回のテーマに関して日ごろ自分が思うことなどを準備しておき、それを講義内容と照らし合わせてみて、意見・質問に反映させる、ということを要求します。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	最終回の「意見・質問」について自分なりの説得力ある考えが述べられていることを評価対象とします。
平常点	70%	毎回の「意見・質問」の内容を出席・提出点として評価対象とします。自分なりの意見・質問であるかどうかが大切で、中国に詳しいかどうかは問いません。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

6回以上欠席の場合は成績評価の対象外とします。
やむを得ない理由で欠席する場合は前もって連絡をくだされば、代替課題を出しますので、それを提出すれば出席・提出扱いにします。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

上記「授業の概要」の「意見・質問の時間」で行います。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

上記「授業の概要」の「意見・質問の時間」で対話形式を試みます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

テレビ番組ディレクター・プロデューサーとして中国報道に関わる(1992～2002年)
フリージャーナリストとして中国報道に関わる(1998年～)
NPO法人「AsiaCommons 亞洲市民之道」を主宰し日中市民交流に携わる(2010年～)

実務経験に関連する授業内容

中国報道・日中市民交流に携わってきた中での知識・経験を授業に取り入れます。

テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布します。参考文献は授業中に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 中国文化講義(3)B

担当教員： 麻生 晴一郎

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 木3

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-GC3-E414

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:54:0

更新者： AD1692

更新日時： 2025-12-30 22:28:5

授業形式

対面形式で行います。

履修条件・関連科目等

特にありませんが、中国・台湾・香港に関心のあることが前提です。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

現代中国における市民活動の現状と日本との交流について学んでいきます。前期「中国文化講義(3)A」に続く内容ですが、本講義のみでも理解することができますようにします。授業は下記「授業計画と内容」にあるテーマに沿って、前半に講義を行い、後半には「意見・質問の時間」を設け、受講者の興味や疑問に沿って現代中国を考えてみたいと思います。

科目目的

デモや規制など、今の中国で起きている社会的な出来事を把握するための、背景となる問題意識を探り、合わせて中国のそうした社会変化に、日本にいる人がいかに関わることができるかを考えていきます。

到達目標

今の中国社会に関するさまざまなニュースをなるべく偏りなく見ることができること、中国の社会や人と関わる上で知っておくべきことを身に付けることを、到達目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 中国の中の何かと出会うことに関する講師の体験紹介
- 第2回 市民交流をする上で「中国」という語を見つめ直す
- 第3回 市民交流をする上での歴史問題
- 第4回 中国の都会と田舎における「日本」
- 第5回 「民間交流」とは何か？
- 第6回 中国における市民活動の可能性
- 第7回 中国のNGOの実例 農民の地域社会参加
- 第8回 中国のNGOの実例 公共サービス
- 第9回 中国のNGOの実例 政府と庶民の橋渡し
- 第10回 中国のNGOの実例 多文化共生
- 第11回 中国のNGOの実例 差別問題
- 第12回 中国社会の未来と香港・台湾
- 第13回 2026年の中国
- 第14回 市民交流の実践

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回「意見・質問の時間」に意見・質問を述べてもらうか用紙に書いて授業終了後に提出してもらい、出席・提出点といたします(受講者数によって変更の可能性あり)。意見・質問は、中国への造詣が深いことを必ずしも要求せず、講義内容を踏まえた上で、日ごろ自分が学習や生活の中で知ったこと、感じたことに突き合わせてみるような内容を望みます。そのため授業開始前に、あらかじめ毎回のテーマに関して日ごろ自分が思うことなどを準備しておき、それを講義内容と照らし合わせてみて、意見・質問に反映させる、ということを要求します。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	最終回の「意見・質問」について自分なりの説得力ある考えが述べられていることを評価対象とします。
平常点	70%	毎回の「意見・質問」の内容を出席・提出点として評価対象とします。自分なりの意見・質問であるかどうかが大切で、中国に詳しいかどうかは問いません。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

6回以上欠席の場合は成績評価の対象外とします。
やむを得ない理由で欠席する場合は前もって連絡をくだされば、代替課題を出しますので、それを提出すれば出席・提出扱いにします。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

上記「授業の概要」の「意見・質問の時間」で行います。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

上記「授業の概要」の「意見・質問の時間」で対話形式を試みます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

テレビ番組ディレクター・プロデューサーとして中国報道に関わる(1992～2002年)
フリージャーナリストとして中国報道に関わる(1998年～)
NPO法人「AsiaCommons 亜州市民之道」を主宰し日中市民交流に携わる(2010年～)

実務経験に関連する授業内容

中国報道・日中市民交流に携わってきた中での知識・経験を授業に取り入れます。

テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布します。参考文献は授業中に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

